

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700161		
法人名	有限会社 誠心会		
事業所名	グループホーム笠戸		
所在地	山口県下松市大字笠戸島10032-38		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 23 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入所者様が季節に応じたちぎり絵を制作し、見える場所に掲示をして四季を感じられるよう支援をしている。
・新型コロナウイルス感染症が第5類へ変更し、外部活動等を活発に行うようにしている。(紅葉や季節の花を見に行く等)
・花を植えたり、施設内の散歩をしたり、外部に出るだけでなく施設内の屋外活動も行っている。
できる限り入所者様に行うように努めており、料理、洗濯物をたたむ、掃除、ゴミ出し等日常生活をしていく上で必要になることを一緒に出来るようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3590700161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 1 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある”自分らしく日常生活ができ、安心安全なスローライフを楽しんで頂けるよう支援する”に特に力を入れている。利用者に其々ができることを行って頂けるように職員は心掛け、日常の生活に生き甲斐が持てる環境作りに努めている。玄関先のプランターに咲く花の世話、洗濯干し、食器洗い、カレンダー作成等、利用者の能力や特性を活かした活動を行って頂いている。利用者がお茶やおやつを、評価調査員に出して頂いた姿は、とても印象深かった。こうした利用者ができることを見出し、職員が寄り添って活動していることで、利用者は穏やかな表情のスローライフとなっている。利用者が職員と一緒に作成した季節ごとの掲示物も多く展示しており、貼り絵が得意な利用者で作った干支の龍の作品や、習字が好きな方の何枚も重ねられた作品等、目を見張るものであった。利用者の楽しみの一つである食事にも楽しんで頂ける様に配慮している。月1回の手作りおやつの日には、おはぎ、善哉やショコラ等を利用者と一緒に作り、麺類の日には、おにぎりを作って頂き、和やかな食卓となっている。利用者に寄り添った介護に臨んでいるこの施設は、職員と利用者共に、”みんな仲良く”の合言葉を正に実践していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた施設理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム笠戸の理念を見えやすい場所に掲示をしている。職員は業務の中で確認をしている。	法人とグループホームの2つ理念があり、大きな字でリビングと廊下の見える所に掲示している。法人の目標として「みんな仲良く」を掲げていて、会議の時に振り返るようにしている。職員同士はもちろんのこと、利用者とも仲良くすることで絆を深め、パワーを頂いている。	
2	(2)	○施設と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、施設自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事に可能な限り出席し交流を図っている。また、地域からも地域行事の案内がくる為、良い関係で交流が出来ている。	散歩時に出会った方と挨拶を交わしている。公民館に地域の方や警察が集まった際に、グループホームの利用者も参加して交流を深めた。町内会には加入していて、何か行事がある際には、連絡を頂ける関係が築かれている。幼稚園から花の種を頂き、写真を撮ってお礼の手紙を書いたら返事が届いた。	他施設や地域との交流をさらに深めてみてはいかががでしょうか。
3		○施設の力を活かした地域貢献 施設は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方との交流に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、日々の運営が適切に継続して行かれるように、改善等も合わせて活動している。	代表取締役を中心に職員の意見を吸い上げて書類を作成している。職員間の連携も取れているので、日頃の業務中に意見を聴取できた。最終的には、管理者と相談もできた。評価終了後には、リーダー会議や事業所会議を通じて、話し合いの場を設けて、確認するようにしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加者に対して、サービスについて報告を行い、意見を頂いている。運営推進会議での内容をサービスの向上に活かしている。	対面で実施ができています。地域包括支援センター、婦人会、民生委員、地域住民、家族代表、会長や代表取締役が参加している。入居者状況、ヒヤリハット・事故報告、研修報告、行事予定の確認を行った。写真付きの笠戸だよりも配布し、利用者から上がった要望も情報共有している。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、施設の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点等を窓口へ出向いたり、電話を掛けたりして相談を行っている。	介護保険課とのやり取りは電話が多いが、何かわからないことがあったり、持参するものがあれば、直接窓口に出向く場合もある。窓口へは、代表取締役、統括、管理者、ケアマネジャーも足を運んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換ができていて、連携も取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体校則廃止マニュアルをもとに研修会を実施して身体拘束を行わないように理解を強めている。	年4回の研修と身体拘束委員会を同時に開催している。認知症への対応や事例を取り上げて学びを深めている。月1回、会長や代表取締役からも身体拘束や虐待について話をする機会がある。安全面に配慮して玄関は施錠しているが、デイサービスとの通路は開放している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や施設内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないように会議等で日々注意を行ったり、学習を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や全体会議で勉強会を行う。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご利用者様並びにご家族様へ説明を行い、ご理解を頂いた上で契約書へ署名をして頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にご利用者様並びにご家族様へ説明を行っている。また、毎月事業所便りをご家族様へ送付しご利用者様の情報が分かるようにしている。コロナウイルスが第5類へ変わり、面会規制も会社の方針が緩和し、直接面会が可能となった。	面会は少人数・対面式で実施している。毎月笠戸だよりにメッセージと写真を付けて家族へ郵送している。スポーツドリンクや野菜ジュースが飲みたいと要望が上がリ、家族に伝えたら持って来て頂けた。家族との連携も図れているので、直接要望を聞くことが多い。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議や毎日のミーティングで意見や提案を聞き反映させている。月に1度代表者と管理者にて会議を行っている。	管理者は、毎月の職員会議や毎日のミーティングの他、日頃の業務の中で職員の意見や要望を聞いている。管理者は代表取締役とこまめに連携を取っているため、施設内の状況を把握しやすい。代表取締役も週1回以上、施設に訪問されるのでコミュニケーションが取りやすく、年1回、個人面談も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々働きやすい環境にしていくように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対して研修に積極的に行くように伝えられている。希望者には速やかに研修に行かせている。	初めて介護に携わる職員へは、「アットホームさ」を伝えて、自然と取り組めるように配慮している。外部やWEB研修があれば、積極的に参加するようにして、報告書も挙げるようにしている。報告書は、全職員で共有できるように、ノートや申し送り時に確認をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ後減ってはいるが、市内介護施設の研修会等に積極的に参加し、挨拶等はしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に伴う事前面談や見学等を行い、入所者様やご家族等の要望等をお聞きして不安要素を減らしていき、安心して入所に至るよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に伴う事前面談や見学等を行い、入所者様やご家族等の要望等をお聞きして不安要素を減らしていき信頼関係が出来た上での入所となっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所者様やご家族の意向を把握した上で、現状必要とされている支援を見極めて説明を行い、入所者様やご家族から安心して頂けるようサービスの提供に強めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症対応型共同生活介護との認識を職員全員が必ず持つようとして、日頃の業務1つ1つでも、少しのことで一緒に行うように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に面会に来られる雰囲気作りを大事にしている。入所者様とご家族の絆を大切に職員も一緒になって支え合っていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人との面会、手紙、年賀状等の書面での交流、電話の取り次ぎなど出来る支援は継続して行っている。また入所者様の中には施設の地域に住まわれていた方や、施設内別事業所でサービスを受けられていた方等もあり、積極的にお会いが出来るようにしている。	面会は少人数・対面式で実施している。昔馴染みの親友から連絡があった際には、利用者は大いに喜んで会話を楽しんでいた。年末年始には、笠戸島にある神社にお参りに出掛け、桜の名所やなのはな、コスモスなどを眺めに行き、利用者へ癒しを与えている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんななかよくのもと、入所者様同士の関係を把握して、共同で生活する家族として関わり合えるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所者様の入院先への確認や相談などの話し合いに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人に話を伺い思いや意向の把握に努めている。入所者様に寄り添い傾聴している。	入居時にフェイスシートやアセスメントシートにて(基本情報、生活歴、趣味など)把握している。日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの様子や気づき、会話を「行動・介護記録」に記入して、会議にて情報共有ができています。一人ひとりにあった作業を考えていて、洗濯物干しやモップ掛けの手伝いをして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者様並びにご家族様からこれまでの歩みや生活歴、生活環境等を伺っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る力や理解度等を日々の生活の中で見だして現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議などで一人ひとりの問題点等を話し合い意見やアイデアなどを反映して介護計画につなげている。	入居時に暫定プランを作成し、何もなければ6ヶ月毎に更新している。計画作成担当者が中心となり、職員からの情報や家族に連絡を取り、より良いプランを作成している。また、日常生活でできることを模索して、利用者に無理のないように配慮している。モニタリングは毎月実施して、6ヶ月毎に更新している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子やケアの実践などを記録に残している。状態に変化があった場合には職員間で情報を共有しケアの検討をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための施設の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に変化が生じた場合などに協力医をはじめとする医療機関との連携をとりご家族に報告・相談し、受診・入院などの支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源であるボランティアに来て頂き、心豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と施設の関係構築を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし、毎月2回の訪問診療を行っている。受診が必要な場合、ご家族様や、職員が同行し適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は、入居時に選べるが、ほとんどの方が協力医に転医している。月2回の往診があり、ドクターとの関係も良好で利用者も笑顔で会話をしている。訪問歯科は、何かあれば予約を取って対応している。グループホーム内でも、4名の看護師が常駐しているので安心できる体制となっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の状態に変化があるときは看護師に報告、連絡、相談出来る態勢が整っており、適切な受診や看護が受けられるようになっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護職員や計画作成者が医療機関やご家族様と協議や意見交換を行い、病院との関係構築にも尽力している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、施設でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応マニュアルに基づき、事業所が出来る対応について契約時にご家族に説明している。重度化した場合は、ご家族の意向を確認し主治医や看護師など関係者で協議し、医療機関への入院や他施設への移設も含めて方針を決め共有し支援している。	看取りは実施していない。急変した際には、すぐに救急連絡を取るようになっている。重度化した際には、入院される方が多い。入居時に「重度化対応マニュアル」に沿って説明し、同意書を交わしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	対応した職員がヒヤリハット・事故報告書を作成し管理者・代表者が確認をしている。ミーティングや会議等で検討し再発防止に努めている。急変や、転倒などの事故等で初期動作が全職員が適切に柔軟に出来るようにこれからも学習していくことが必要。	運営推進会議にて、事故報告やヒヤリハットについて報告をしている。なぜ起きたのかを振り返るとともに、今後の対応や改善策について話し合いをしている。職員へは、会議や申し送り時に伝えて、情報の共有ができています。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災訓練を受けており、消防署の協力も得ている。	年2回、昼夜想定で火災訓練を、併設する有料とデイサービスと合同で実施できた。他にも土砂災害の訓練も行った。消防の方が来られて、AEDの使い方や心肺蘇生について学んだ。事務所に、連絡網とハザードマップを掲示している。備蓄は、法人施設で一括管理をしている。	災害対策について、今一度見直してみたいか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保に努めるように居室の出入りの際は声掛けをしながら扉を開けたり、入浴や排泄介助時は扉を閉めるなど心掛けている。	呼称の基本は、苗字に「さん」付けで呼んでいる。職員は「プライバシー保護マニュアル」に基づいて、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けに配慮している。記録の保管や個人情報の取り扱いにも注意して、事務所の鍵がかかる部屋で管理している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様からの意見等を反映させレクリエーションに活かしたり、活動が出来るようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者様一人ひとりの意思を尊重しながら支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問カットを行っている。ご要望をご家族等に連絡し、衣類を持参して頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おにぎりの日は入所者様本人に作成をして頂いている。また、畑の野菜を使用したり、調理についてできる所は一緒に行ったりしたりしている。また片付けも一緒に行っている。	食事は3食手作りで、デイサービスの厨房から運ばれる。朝は職員が1品作ることもある。食事中はBGMが流れていて、利用者はゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しんでいた。食器洗いを手伝ってくれる利用者もいる。麺類の日には、おにぎりを利用者が上手に握っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士がメニューを作成している。食事量・水分量を記録に残している。食事の際には水分摂取の声掛けを行い支援している。夜間、水分補給出来るようにペットボトルを居室に置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの航空状態を把握し、義歯のかみ合わせを確認しながら、毎食後口腔ケアを行っている。ひとりで出来ない方は職員が介助をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握して、声掛け誘導している。紙パンツ・リハビリパンツの使用量が最小ですむように支援している。	トイレは2ヶ所あり、扉も車イスが通れる広さであった。日中はトイレ誘導を行い、夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。布パンツで過ごされている方が3名おられる。パットをしている方へは、トイレ誘導や言葉掛けを繰り返した結果、布パンツに改善された事例もある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を必ず行い便秘予防に取り組んでいる。また水分量や食事量を把握し、少ないときは補給するように心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に週2回入浴している。入所者様の体調や都合に合わせて曜日を変更したり、回数を変更するなど臨機応変に対応が出来るようにしている。湯温や入浴剤などなるべくご利用者様の希望に沿うように支援をしている	週2回の提供でゆったりとした時間を確保している。浴槽に浸かれる方がほとんどで、シャワー浴や足浴にも対応している。入浴を拒否される方はおらず、スムーズな入浴の流れができています。脱衣所は冷暖房完備で、ヒートショックにも対応している。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯の提供もできた。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大事にし、体調を考慮し休息したりしている。その際快適な環境で休まれるように温度や湿度などの管理を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルに収め、情報を共有し、変更時には職員全員に連絡をしている。体調変化はこまめにかかりつけ医に相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは時に点数を競ったり、協力をして一つの物を完成させるなど、熱中ができるレクリエーションを考え、その中で喜び等の充実感が出るように支援している。	食器洗いやお盆拭き、洗濯物干し、カレンダー作りや貼り絵など、利用者一人ひとりに合わせた作業を提供している。毎日レクリエーションを開催して、キャップを使った数字合わせや漢字・絵合わせが人気を博している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ緩和後で制限があるが、散歩をしたりドライブをしたりしている。また外でレクリエーションも行っている。	施設周辺の散歩やベンチに腰掛けてシャボン玉を飛ばして、外気に触れる機会を作っている。利用者一人ひとりに鉢植えを育てて頂き、玄関先に置いて成長過程を楽しんでいる。ドライブがてら、桜や菜の花、ひまわりやコスモスなどの季節に応じた花を見に行った。施設の裏の畑でトマトやきゅうりの栽培も行っている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入所者様が自己管理が難しい為、基本的に所持金はありません。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい都の要望があれば支援をしている。また、手紙や年賀状を出したりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には落ち着いた色のカーテンを掛け強い刺激がないように配慮している。建物も日差しがよく入り、カーテンや窓を開け風を感じたり外の風景が見られるようにしている。また飾り付けなどを行い季節感の演出をしている。	大きな窓からは自然の光が差し込む広々としたリビングでは、毎日の体操やリハビリ後に、ティータイムを楽しんでいる様子が窺えた。TVや雑誌を読んだり、上手に塗り絵をされている方もいた。大きなソファに腰を掛けて、会話を楽しんでいる方もいる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子・ソファなどの配置を考え、一人になれたり、思い思いに活動ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り入所者様が希望する物をご家族に持参して頂き入所者様一人ひとりが過ごしやすい居室となるように援助をしている。	備え付けは、ベッド、エアコン、クローゼット。毎日清掃をして清潔さが保たれている居室では、小説や週刊誌を読んだり、TVやラジオを聴いて過ごしている。ナンプレや点つなぎをされている方もいて、壁面には今までに作成した数多くの作品が並んでいた。家族との写真を大切に飾っている方もいる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に考えて危険のないように不要物を排除し、文字も見えやすいように大きい文字にするなど、自立支援が出来るように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				